

4. 次期の見通し

販売電力量は、前年の夏季の高気温による冷房需要の増加の反動はありますが、電化機器の普及や産業用における食料品での新增設などにより、増加する見通しであります。

このような状況のなかで、連結業績の通期見通しは、収入面では、販売電力量の増加や、燃料価格の上昇に伴う燃料費調整制度の影響などにより、売上高は、増収となる見通しであります。

一方支出面では、燃料価格の上昇や泊発電所の定期検査基数の増加による修繕費の増加などはあるものの、泊発電所3号機の定率効果などによる減価償却費の減少などにより、経常利益は増益となる見通しであります。

以上により、次期の売上高は5,960億円程度、営業利益は470億円程度、経常利益は330億円程度、当期純利益は200億円程度となる見込みであります。

当社は、東京電力福島第一原子力発電所で発生した事故を受け、事故発生後、速やかに実施した当面できる限りの対策に加え、緊急安全対策を実施いたしました。泊発電所のさらなる安全性向上を目指し、中長期的な対策についても自主的に実施してまいります。これらの対策は主に設備投資によるものであり、次期業績への影響は限定的であります。

また、本州方面への電力融通につきまして、本業績見通しでは、当面の計画として5月末までの送電を見込んでおりますが、6月以降の送電につきましても、今後の需給状況を踏まえながら、当社として最大限の支援を行ってまいります。

今回の東日本大震災の影響は、経済・社会面におけるさまざまな分野に広がっていくものと予想され、当社の事業活動も、これらの影響を受ける可能性があります。

○ 連結業績見通し

平成24年3月期連結業績予想

(単位：百万円)

	通	期	第2四半期連結累計期間	
		対前期増減		対前年同四半期増減
売上高	596,000	30,000	277,000	9,000
営業利益	47,000	4,000	20,000	△ 2,000
経常利益	33,000	4,000	13,000	△ 2,000
当期純利益	20,000	8,000	8,000	5,000
販売電力量	326億kWh程度	(0.8%程度) 3億kWh程度	151億kWh程度	(△1.6%程度) △3億kWh程度

○ 単独業績見通し

平成24年3月期単独業績予想

(単位：百万円)

	通	期	第2四半期累計期間	
		対前期増減		対前年同四半期増減
売上高	576,000	30,000	269,000	9,000
営業利益	42,000	4,000	19,000	△ 3,000
経常利益	28,000	4,000	12,000	△ 3,000
当期純利益	18,000	8,000	7,000	4,000

※通期の為替レートは85円/\$程度、原油C I F価格は110\$/b1程度として想定しております。